

II 現状の整理

1 本市の特性

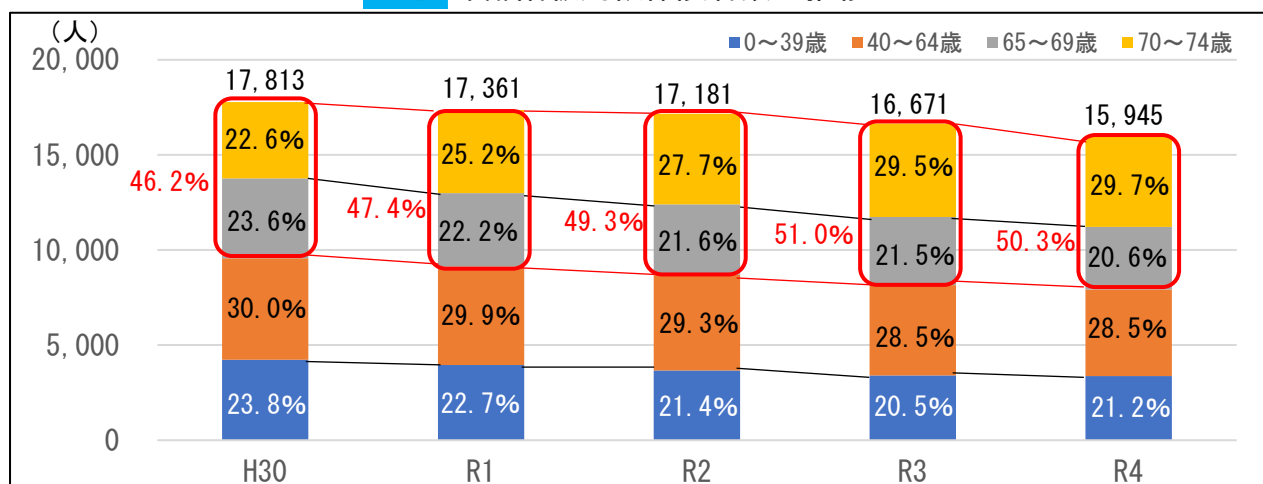
(1) 被保険者数の推移（年齢別被保険者構成割合）（図④）

令和4年度末現在の国保被保険者数は、15,945人であり、平成30年度末の17,813人から1,868人減少しており、年々減少傾向にある。

また、令和4年度末の年齢階級別構成割合は、0歳から39歳までが21.2%、40歳から64歳までが28.5%、65歳から69歳までが20.6%、70歳から74歳までが29.7%である。

70歳から74歳は、平成30年度の22.6%に比べ、令和4年度は29.7%と、7.1ポイント増加している。この影響で、前期高齢者（65歳から74歳までの被保険者）が、令和3年度以降、全体の過半数を占めている。

図④ 年齢階級別被保険者数の推移（各年度3月31日時点）



※ は、前期高齢者を表す。赤字は、前期高齢者が占める割合。資料：袋井市「市政報告書」

(2) 国保資格異動の状況（表④）

令和4年度では、後期高齢者医療制度への加入による国保被保険者数の減少が、増減数の中で最も多く、団塊の世代と呼ばれる年齢層が、後期高齢者医療制度に移行していることにより、国保被保険者数に影響を与えている。

表④ 令和4年度国保資格異動者の状況

資格取得 (①)		資格喪失 (②)		増減 (①-②)
転入	1,085人	転出	584人	501人
社保離脱	2,505人	社保加入	2,403人	102人
出生	49人	死亡	133人	△84人
後期高齢者離脱	0人	後期高齢者加入	1,053人	△1,053人
その他	37人	その他	229人	△192人
合計	3,676人	合計	4,402人	△726人

資料：袋井市「市政報告書」